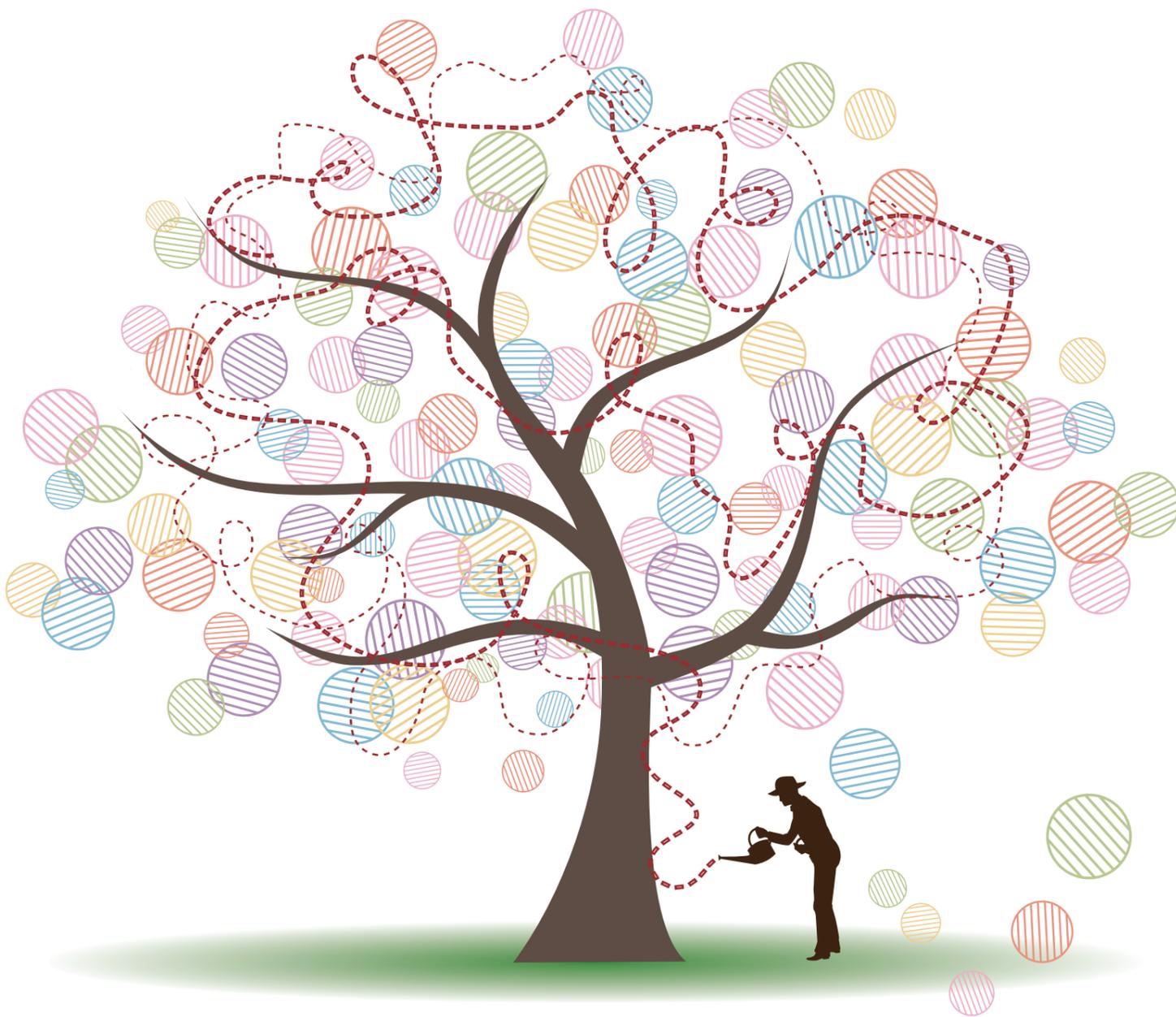


# 2012年度 第18回FDフォーラム

## 学生が主体的に学ぶ力を身につけるには

2013年2月23日(土)・24日(日) 会場：立命館大学衣笠キャンパス



<テーマ>

## 学生が主体的に学ぶ力を身につけるには

現在の大学教育改革は1991年の大学設置基準の大綱化によって始まったが、当初は教養課程の廃止やセメスター制など教育システムの改革が中心であった。その後、FDが強調されるようになり、授業改善の取り組みが広がったが、実際にはシラバスの充実や授業アンケートの実施と教員自身による授業方法の工夫にとどまっていた。

FDは2008年に義務化されたが、多くの大学では従来のFDを踏襲している感が強い。しかし、FDの義務化以後、「学生の主体的な学び」というキーワードが中教審(2008年答申、2012年答申)や文科省(2012年大学改革実行プラン)の文書に登場し、大学教育の質的転換が謳われるようになった。

一方、大学コンソーシアム京都では、1995年以来FDフォーラムを開催してきたが、当初より学生の学びの向上を目標にしてシンポジウムを開催しており、学生の主体的な学びを引き出す取り組みも何度か取り上げてきた。そこで今回は「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」を統一テーマとし、これまでのFDフォーラムの成果を引き継ぐとともに、さらに一步を踏み出すべく、以下の二つの切り口について参加者とともに考えてみたい。

一つは「主体的な学びを支える仕組み」であり、もう一つは「学生とともに進めるFD」についてである。

### 当日タイムスケジュール

	時間	内容	場所
2月23日(土)	12:00~13:00	受付	以学館
	13:00~17:10	シンポジウム①	以学館1号ホール
		シンポジウム②	以学館2号ホール
	17:30~19:00	情報交換会	諒友館 食堂
2月24日(日)	9:00~10:00	受付	敬学館
	10:00~12:00	分科会【前半】※1)	
	12:00~13:30	昼休憩・ポスターセッションコアタイム※2)	
	13:30~15:30	分科会【後半】	

※1) 申込された分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。前半と後半は同じ分科会に参加していただきます。

※2) ポスターセッションは2日目の10:00~15:30に開催しております。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

## 申込方法

申込みから当日参加までの流れ

### STEP 1 お申込み(先着順)

申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

①右下のURLから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。

②送信いただいたメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLをお送りします。

③記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。

※「参加申込みフォーム」のURLの通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がございます。その場合はお手数ですが「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

※2012年12月18日(火)～26日(水)は、大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の優先申込期間となっております。この期間は、加盟大学・短期大学以外の方はお申込みできませんので、予めご了承下さい。また、申込み手続き完了後の変更は一切受け付けられませんのでご注意ください。  
なお、優先申込期間は、優先定員までの受付となります。

### STEP 2 参加費のお支払い

参加費は事前の支払いとなっております

申込み手続きが完了した方には、後日、郵送にて払込票(請求書)をお送りいたしますので最寄りのコンビニエンスストアで参加費の支払いを行って下さい。取り扱い可能なコンビニエンスストアは同封している払込票の裏面をご覧ください。

なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。

また、お申込み手続きと参加費のお支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

**【参加費支払締切：2013年2月5日(火) 24:00まで】**

お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、webシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。予めご了承下さい。参加費をお支払いいただいたのち、やむを得ずご欠席された方につきましては、後日、FDフォーラム関連資料を送付いたします。

### STEP 3 参加証が届く

参加費の支払いが完了した方には参加証をメールにて送信します。2月16日(土)になっても参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせ下さい。

### STEP 4 当日

当日はプリントアウトした参加証(メール)を持参し、受付にて提示して下さい。  
※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出下さい。

## 申込期間

2013年1月8日[火]～1月24日[木]

【参加費支払締切：2013年2月5日(火) 24:00まで】

加盟大学・短期大学 優先申込期間

2012年12月18日(火)～12月26日(水)

優先申込期間後も1月24日(木)まではお申込みいただけます。

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、優先申込期間を設けています。加盟校以外の方は、1月8日以降にお申込下さい。なお、優先申込期間は、優先定員までの受付となります。

**当日申込みは、一切受け付けできませんので、ご注意ください。  
シンポジウム・分科会ともに、1つしか申込できません。**

## 参加費

所属	区分	情報交換会含む	情報交換会除く
加盟 大学・短期大学	教職員	5,000円	3,000円
	学生	1,000円	無料
非加盟 大学・短期大学等	教職員、一般	7,000円	5,000円
	学生	2,000円	1,000円

## 第18回FDフォーラム企画検討ワーキング

- ★ 木野 茂 [立命館大学 共通教育推進機構 教授]
- ☆ 長谷川 岳史 [龍谷大学 経営学部 教授/大学教育開発センター長]
- 遠藤 央 [京都文教大学 総合社会学部 教授]
- 尾崎 タイヨ [京都学園大学 経済学部 教授]
- 葛城 大介 [京都薬科大学 数学分野 准教授]
- 河原 宣子 [京都橘大学 看護学部 教授]
- 坂井 岳夫 [同志社大学 法学部 助教]
- 高橋 伸一 [京都精華大学 人文学部 教授/共通教育センター長]
- 西村 美紀 [大谷大学短期大学部 講師]
- 畑田 彩 [京都外国語大学 外国語学部 講師]
- 林 悠子 [佛教大学 社会福祉学部 講師]
- 坂本 尚志 [京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定助教]
- 廣瀬 直哉 [京都ノートルダム女子大学 心理学部 准教授]
- 耳野 健二 [京都産業大学 法学部 教授]
- 村田 利裕 [京都教育大学 教育学部 教授]

★…委員長 ☆…副委員長

## URL(アドレス)

<https://event.consortium.or.jp/fd18/>  
もしくは

大学コンソーシアム京都

## 会場へのアクセスマップ



出発地	路線	乗車時間	下車駅	徒歩時間	目的地
JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	京都市バス 50 (京都駅 B2 のりば)	約 50 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
	京都市バス 205 (京都駅 B3 のりば)	約 35 分	衣笠駅前	徒歩 約 10 分	衣笠キャンパス
JR 京都駅	JR バス 高雄・京北線 (京都駅 JR3 番のりば)	約 30 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
	京都市バス 205	約 20 分	衣笠駅前	徒歩 約 10 分	衣笠キャンパス
阪急 西院駅	京都市バス 26	約 20 分	等持院道	徒歩 約 10 分	衣笠キャンパス
	京福電鉄 嵐山本線・北野線	約 25 分	龍安寺駅	徒歩 約 6 分	衣笠キャンパス
阪急 大宮駅	京都市バス 55	約 20 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
京阪 三条駅	京都市バス 15	約 30 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
	京都市バス 59	約 30 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
JR・地下鉄 二条駅	京都市バス 15 55	約 15 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
JR 円町駅	京都市バス 15	約 10 分	立命館大学前	徒歩 約 10 分	立命館大学前(終点)
	京都市バス 204 205	約 10 分	衣笠駅前	徒歩 約 10 分	衣笠キャンパス

## お問い合わせ



FDフォーラム事務局  
MAIL : fdf@consortium.or.jp  
TEL : 075-353-9163 ※ (日・月を除く 9:00 ~ 17:00)  
FAX : 075-353-9101

### シンポジウム①

以学館1号ホール(定員:550名) 13:00~17:10(受付開始12:00~)

## 主体的な学びを支える仕組み

FDの義務化以降、「学生の主体的な学び」というキーワードは、中教審や文部科学省の文書(2008年答申、2012年答申、2012年大学改革実行プラン)に登場し、大学教育の質的転換が謳われるようになった。

「主体的な学びの確立」・「主体的に考える力の育成」という教育的課題の重要性については、その手法の多様性や学問分野の特性、学生個人の資質に応じたバリエーション等を配慮すれば、特に異論のないところであろう。しかし、それをいざ大学教育の現場で実現するとすると、教授法、カリキュラム編成、アセスメント、教員組織、学修支援環境などの様々な点で、主体的な学びを支える「仕組み」を有機的に作り上げていくことが必要になる。

本シンポジウムでは、主体的な学びの土壌である「仕組み」作りやそのマネージメントに精通した3名の方をシンポジストとしてお招きした。中等教育の視座も踏まえながら、フロア参加者の皆さんが、それぞれの教育現場で「主体的な学び」の可能性を模索できるような機会にしたい。

### シンポジスト



#### 濱名 篤氏

学校法人濱名学院 理事長・関西国際大学 学長  
1987年上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得。博士(社会学)  
1995年学校法人濱名学院理事、2004年関西国際大学副学長を経て、2005年より現職。

【専門領域】  
教育社会学、高等教育論

【主な活動や著書】  
文部科学省中央教育審議会臨時委員・専門委員、文部科学省学校法人運営調査委員、国立教育政策研究所評議員、大学コンソーシアムひょうご神戸理事長等を務める。  
『初年次教育—歴史・理論・実践と世界の動向』丸善 2006年11月  
『知識伝達の構造』世界思想社 2008年3月



#### 荒瀬 克己氏

京都市教育委員会 教育企画監  
1953年京都府生まれ。京都教育大学国文学科卒業後、京都市立伏見工業高校・堀川高校の国語科教諭、京都市教育委員会指導主事を経て、1998年4月堀川高等学校教頭、2003年4月同校校長。2012年4月から現職。同年8月から関西国際大学客員教授。

【主な活動や著書】

2005年以降、中央教育審議会初等中等教育分科会、大学分科会「高等学校と大学との接続に関するワーキンググループ」、教職大学院特別審査会、文部科学省言語力育成協力者会議等の委員、高等学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」作成協力者や、全国都市立高等学校長会、京都市立高等学校長会、京都市教育大学附属高等学校・学校評議員、立命館小学校・学校評議員等を歴任。  
2007年10月、NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で「『背伸びが人を育てる』校長・荒瀬克己」として放送された。  
著書に『奇跡と呼ばれた学校』(朝日新書2007年1月)、『子どもが自立する学校』(共著、青灯社2011年1月)がある。



#### 福田 直史氏

高知工科大学 総務部長  
関西の私立大学で8年間入試・広報・将来計画業務に携わり、2000年、高知工科大学に着任。2008年マネジメント学部開設、2009年工学部再編、同年、日本初の私立大学から公立大学法人への移行業務等を担当。入試部長、企画広報部長等を経て、2010年から現職。



### コーディネーター



#### 高橋 伸一氏

京都精華大学 人文学部 教授 共通教育センター長  
ウォリック大学大学院翻訳学専攻修士課程修了、千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了(博士(文学))。2007年より人文学部教授。

【専門領域】  
比較文学、初年次教育

【主な活動や著書】  
京都精華大学では、教務部長(2004年~2008年)、評議員(2005年~2011年)、共通教育センター長(2009年~)などを務め、主に教務・教学的観点から大学教育改革にかかわる。2004年より大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討委員として、FD活動に従事する。主な著作『マンガFDハンドブック【新任教員編】』、『マンガFDハンドブック【成績評価編】』(いずれも、共編著・京都FD開発推進センター)など。

### シンポジウム②

以学館2号ホール(定員:300名) 13:00~17:10(受付開始12:00~)

## 学生とともにすすめるFD

大学教育の質的転換が学生の主体的な学びの確立を目指すものであるなら、その実現に向けて取り組むべき大学の組織的な教育改善のためのFD活動の中にも、学生の主体的な取り組みが推進されるべきであろう。FDの義務化以後、このような学生によるFD活動を始めた大学が急激に増えているが、FDを進める上で学生を単なる受益者としてではなく、FDにおいても一方の主体として捉え始めたという点で注目される。

そこでシンポジウム②では、この「学生とともにすすめるFD」を取り上げ、学生FD活動が特に盛んな関西の4大学から活動紹介をいただくとともに、参加者の皆さんには、途中で小グループに分かれていただき、学生FDスタッフと一緒に交流と議論をしていただく機会を設ける。学生FDスタッフとの対話を通じて、各大学においてより豊かなFD活動を模索する機会としていただけたら幸いである。

### シンポジスト



#### 木野 茂氏

立命館大学 共通教育推進機構 教授  
1964年 大阪府立大学理学部物理学科 卒業  
1966年 大阪府立大学大学院理学研究科修士課程 修了  
同年より、大阪府立大学理学部教員  
2003年 大阪府立大学・大学教育研究センターへ移籍、副所長  
2005年 立命館大学教授、現在に至る(教養教育センター副センター長を兼務)  
理学博士

【専門領域】  
宇宙線物理学、環境学、大学教育学

【主な活動や著書】  
学生主体型FD活動の推進  
双方向型授業の開発  
『新版 環境と人間—公書に学ぶ』(東京教学社/2001年4月)  
『大学授業改善の手引き—双方向型授業への誘い』(ナカニシヤ書店/2005年2月)  
『大学を変える、学生が変わる—学生FDガイドブック』(ナカニシヤ書店/2012年3月)



#### 梅村 修氏

追手門学院大学 教育研究所 所長  
1992年 慶応義塾大学 文学研究科 修士課程国文学専攻  
帝京大学留学生別科日本語専攻 専任講師  
2003年 追手門学院大学 文学部助教授  
2009年 追手門学院大学 国際教養学部 教授  
同・教育研究所長  
2012年 追手門学院一貫連携教育機構長

【専門領域】  
留学生教育、コミュニケーション論、広告論

【主な活動や著書】  
『アート・マーケティング』白桃書房  
『キャラクター総論—文化・商業・知財』白桃書房  
『地域ブランドと広告—伝える流儀を学ぶ』嵯峨野書院、ほか  
2009年度から学生FD活動を支援を始める。2012年2月には、第5回目の学生FDサミットを主宰。



#### 村山 孝道氏

京都文教大学 教務課 係長  
FD委員会委員、FSDプロジェクトメンバー  
1993年大正大学仏教学部仏教学科浄土学コース卒業  
カナダでの語学留学を経て1995年に京都文教大学へ入職。  
その後、教務課→総務(学長秘書)を経て現職

【専門領域】  
ファシリテーション、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント

大学職員論、中小大学論、学生FD活動を通じたSDの促進「FSD型戦略的OJT」  
【主な活動や著書】  
2009年6月に学生、教員の有志とともに「大学を変える、学生と変える」FSDプロジェクトを立ち上げ、主にヒドゥンカリキュラム領域を中心に大学活性化に取り組む。正科においては、2010年より自校教育科目「京都文教入門」の改革を学生とともに進めている。  
『大学を変える、学生が変わる—学生FDガイドブック』(ナカニシヤ書店/2012年3月)



#### 山内 尚子氏

京都産業大学 学長室  
2002年京都産業大学外国語学部卒業  
2002年学校法人京都産業大学へ就職後、いくつかの部署を経て、  
2007年より2年間、大学コンソーシアム京都へ出向。  
出向期間終了後、大学の職員派遣研修制度を活用し、  
2011年京都産業大学大学院マネジメント研究科修了  
2011年より、教育支援研究開発センター事務局(現在の学長室)にて、  
FD・SDをはじめとする教育の質保証に係る業務を担当。

【専門領域】  
組織学習論

【主な活動や著書】  
2011年6月に学生FDスタッフ「燦(SAN)」を結成。  
学生・教員・職員の枠を超えて本学について語り合う「京産共創プロジェクト」等、燦による企画イベントの運営支援や、学会発表・紀要への投稿原稿作成支援等、34名の学生たちの活動を支援している。  
【燦の学生たちと共著、共同発表したもの】  
・「共創風土を醸成する『燦presents「京産共創」プロジェクト』～学生を中心とした Organization Developmentの取組～」(『高等教育フォーラム』vol.2.2012) (共著)  
・「マイケル・サンデル型授業で教員や学生がどう変わるか」(日本リメディアル教育学会第8回全国大会) (共同発表)

立命館大学 学生FDスタッフ 追手門学院大学 学生FDスタッフ 京都文教大学 FSDプロジェクトメンバー 京都産業大学 学生FDスタッフ

### コーディネーター



#### 耳野 健二氏

京都産業大学 法学部 教授・学長特命補佐  
1990年 京都大学法学部卒業  
1994年 京都大学法学研究科博士課程中退  
2007年 京都産業大学法学部教授  
2012年 学長特命補佐  
博士(法学)

【専門領域】  
法学(近代ドイツの法思想)

【主な活動や著書】  
著作として『サヴィニーの法思想』(1998年)、『サヴィニー『現代ローマ法体系』の「計画」について--遺稿に基づく若干の考察』(『産大法学』45巻3・4号(2012年))など。  
FD関連の活動として、京都産業大学教育支援研究開発センター副センター長(2010-2012年)、大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討ワーキング委員(2010年~現在、2011年度委員長)、日本私立大学連盟FD推進ワークショップ運営委員(2010年~現在)などがある。

**2日目**
**2013年2月24日(日)**
**分科会**
※分科会はいずれか1つの申し込みになります。大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の優先申込期間には、優先定員を設けます。【優先定員】第1～第3分科会…100名、第4～第13分科会…30名

# 分科会

## 敬学館

# 10:00～15:30

(受付開始9:00～)

## 同時開催

**第4分科会（定員：40名）****大学教育と学生生活におけるSNS (social networking service) の光と影**

現在、SNS (social networking service) による情報伝達技術が急速に発達し、人々のコミュニケーション方法やライフスタイルに大きな変化を与えています。大学教育あるいは学生生活においても、SNSは災害時の安否確認や学習コミュニティでの活用など有効活用されていますが、個人情報の漏洩や他者への誹謗中傷、ネット依存などの社会問題も抱えています。この分科会では、ソーシャルメディアを活用した教育、卒業生に軸足を置いたSNSの活用、ネット依存への対応などさまざまなご報告をいただき、学生間の情報伝達手段が劇的に変化する中、私たち教職員はどのように関わっていけばよいかを参加者の皆さまと考えたいと思います。

報告者  
**村上 正行 氏**  
京都外国語大学  
マルチメディア教育研究センター  
准教授

報告者  
**大塚 成男 氏**  
千葉大学大学院  
人文社会科学研究科  
教授

報告者  
**日下 修一 氏**  
獨協医科大学大学院  
看護学研究科 准教授

報告者  
**皆本 晃弥 氏**  
佐賀大学  
大学院 工学系研究科  
知能情報システム学専攻  
准教授

報告者  
**竹元 仁美 氏**  
聖マリア学院大学  
大学院 看護学研究科  
准教授

報告者  
**酒井 博之 氏**  
京都大学  
高等教育研究開発推進センター  
准教授

コーディネーター  
**坂本 尚志 氏**  
京都大学  
高等教育研究開発推進センター  
特定助教

**第1分科会（定員：150名）****「成績評価」から見る大学教育**

大学教員の行う成績評価は、言うまでもなく、卒業要件である単位授与の前提であり、大学における教育にとって欠くことのできない行為である。もっとも、成績評価の意義はそれに止まるものではなく、学生が自らの学修の到達度を測り、第三者が当該学生の学修の状況を知り、あるいは、大学（教員）自身が教育活動の成果を評価するに当たって、1つの重要な指標を提供しうるものである。また、成績評価の現状に対しては、「成績評価の厳格化」が求められるなど、改善の必要を指摘する声も少なくない。さらに、成績評価を取り巻く外的環境に目を向けると、情報通信技術の発達などを受けて、学生の能力・努力を適切に反映した評価の難しさも認識され始めている。本分科会は、以上のような認識の下で、成績評価が持つ意義や成績評価をめぐる課題について、認識の共有や意見の交換を行うことを目的としている。

**第5分科会（定員：40名）****多言語教育の現状と将来**

楽天が英語を社内公用語するという試みが象徴的であるように、外資系だけでなく、日本の企業においても、日本語だけで一生勤務できかどうかの岐路に来ているように思える。大学生の就職活動を日本語だけでおこなうのか、英語その他の言語も選択肢にいれておこなうことができるかどうかで、将来設計がおおきくかわっていくことが予想される。東京大学がバイリンガル、トリリンガルのエリート教育構想を検討していると聞くと、多言語教育をエリート教育だけに限定するのかわどうかも問われていけだろ。そこで、多言語教育の現状を把握し、カリキュラムをどのように再編成していくことが可能かを考えたい。短期の語学留学を含む留学や留学生の受け入れを積極的におこなっている大学のカリキュラム内容やその評価などを出発点に、多言語教育の将来を考えてみたい。

**第10分科会（定員：40名）****学習支援における教職協働と第三の職種**

今日の高等教育がはらむ様々な問題は、伝統的な教員・職員の二分法だけでは十分に解決できないものが多々あり、これに対処するために教職協働はもとより、さらには第三の職種の必要性までもが説かれるようになっていいる。リメディアル教育等に関わる「学習支援」の場合は、このような問題が最も深刻に表れる場面の一つである。そこで本分科会ではこの主題をとりあげ、①「学習支援」において「教職協働」とはどのようなものか、それはどうすればうまく機能するのか、あるいは、②「学習支援」における「第三の職種」とはどのようなものか、それは誰がどのようにして担うのか、そしてその専門性や制度上の位置づけはどのようなものか、といった問題点を、様々な角度から検討したい。そのために本分科会では、先進的な取り組みをしておられる幾つかの大学の事例を報告していただくとともに、参加者の皆さまが相互に意見交換をおこなう時間を設け、様々な課題と成果を共有できる場としたい。

**第2分科会（定員：150名）****キャリア教育の現状と課題**

キャリア教育については「就職対策」が ついに義務化されたかとの嘆きも聞く。一方で、大学によっては、教養教育の重要な柱の1つとして全学的に展開する例もある。さらに、より根本的に「学ぶ意欲」そのものから鍛え直す動きもある。多様な位置づけ、経験を知り、大学教育にふさわしいキャリア教育のあり方を考える。また、多くの大学では、組織的に取り組む場合の課題も抱える。科目の性格が従来の知識教育の体系となじみにくいため、どの大学もカリキュラム構成に苦労しているはずである。この経験を共有することは意義深い。大学としてキャリア教育を体系的に組織化する上で、教職員組織上の取り組みにも影響がある。教職と就職・キャリアの仕切りなどは大学の中でどのキャリア教育の位置づけに関わる。誰がどのようにこの教育に関わるのか、具体例を多く知ることは大きな関心事である。

**第6分科会（定員：40名）****「アウェイ」で教える教養科目**

近い将来社会に出ていく学生にとって、いわゆる「教養」を身に着ける必要性は改めて論じるまでもない。しかし、学生自身はその必要性に気づいているのだろうか。「何を学びたいか」ではなく、「単位が取り易いか」を基準に科目を選ぶ、授業中専門科目の宿題を上げている、絶え間なく続く私語、など教養科目を担当する教員であれば一度ならず経験していることだろう。専門分野と関連の薄い科目の担当教員であればなおさらである。このような状況をFDによって変えることはできるのだろうか。本分科会前半では、まず京都造形芸術大学副学長の**大野木**先生から、これからの大学における教養教育、特に専門分野と関連の薄い科目を教える意義、特に専門分野と関連の薄い科目を教える意義、特に専門分野と関連の薄い科目を教える意義、特に専門分野と関連の薄い科目を教える意義としてお話しいただく。続いて龍谷大学の谷垣先生、兵庫県立大学の中髙先生より「アウェイ」の環境下での授業事例をご報告いただく。後半ではグループディスカッションを行い、効果的な方法論や授業デザインなどについて情報共有を行いたい。

**第11分科会（定員：40名）****学部ゼミナール運営の課題**

大学教育改善の取り組みの中で様々な研究が行われているが、専門教育において重要な役割を果たしている学部ゼミナールについての研究は必ずしも多くない。卒業論文作成や専門教育のための学部ゼミナールは、他の授業と比較すると、教員の個性が発揮しやすいこと、教員＝学生および学生同士の距離が近いことなど、かなり独自性の高い授業であるといえる。しかしながら、最近ではゼミも一授業科目として捉える学生も増えてきており、ゼミ学生同士の共同体意識も薄らいできているように思える。そうした中で以前に比べて、ゼミ運営について困難を感じておられる教員も少なくないように思われる。そこで、本分科会では、主に社会人文学系学部において開かれている学部ゼミナールの運営について取り上げる。分科会の参加者間で、ゼミ運営の課題や対処を共有することで、今後のゼミ運営への一助になれば幸いである。

報告者  
**毛利 猛 氏**  
香川大学  
教育学部 教授

報告者  
**柴原 宜幸 氏**  
京都大学大学院  
リベラルアーツ学部  
人間心理学 教授

報告者  
**伏木田稚子 氏**  
東京大学大学院  
学際情報学府  
文化・人間情報学コース  
博士課程

コーディネーター  
**廣瀬 直哉 氏**  
京都ノートルダム女子大学  
心理学部 准教授

**第3分科会（定員：150名）****学生による授業アンケートの現状と課題そして発展へ**

「学生による授業アンケート」は、FDに関わる手法の代表格と見なされたこともあり、その名称の違いはあれども、現在、ほとんどの大学で実施されている。しかしながら、導入されてからかなりの年月が経っている大学が多いにも関わらず、未だ「どのように授業アンケートを行っているか」という実施方法に関する話題は、FD関係の集まりの中では定番となっている。方法への関心が依然として高い一方で、ややもすると「何のために始めたのか」「何を目指したのか」という原点を見失ってはいただろうか。原点を見失ったまま方法に焦点をあてても、「何が問題なのか」「現状の問題をどう解決すべきか」「将来的に何を目標としているのか」という重要課題は、いつまでも先が見えないまま棚上げされてしまうのではないか。本分科会テーマの背景には、こういった問題意識がある。本分科会では、前半は5名の報告者による報告を中心に、後半は各参加者が持ち寄った現状と課題の情報をもとにして、「そもそも学生による授業アンケートとは何か」を考え、参加者全員でマクロ（大学教育）・ミクロ（教員・授業）の両視点から、今後の発展を見ずすて「本音」で議論したい。

**第7分科会（定員：40名）****学生間の協同的学習を促す授業方法**

学生の学力低下や高等教育全入時代の到来によって、「主体的学び」を授業者が仕掛けていくことが求められるようになった。とくにFD義務化以降、FDの授業改善分野において、教員－学生間の双方向的授業方法やICTを利用した授業方法など、多様な授業方法が開発されてきた。本分科会では、その中でも、学生間の協同に基づいた授業実践を紹介し、学習される内容や質はもとより、学習そのものへの姿勢や態度の変化についても議論したい。このような学習におけるパラダイム転換は、これまで学校教育の授業方法としてその理論や実践が蓄積されてきたが、今回は学校教育との連続性、また大学教育における展開や組み替えといった点にも注目し、協同教育の授業方法で、講義科目での授業実践、演習科目での学習法（LTD学習法）やIBL学習法などの報告、ワークショップ等を通して、考えてみたいと考えている。

**第12分科会（定員：40名）****高等教育で本当に「実践力」は身につくのか？**

大学教育と言えば、「座学」のイメージが強いのではないだろうか？学生は、先生の話しを聞くだけの「講義」形式であり、受け身で聞いてペーパー試験で合否を判定するというのが教育の基調なのである。知識が十分あるはずの学生なのに、医学部では、苦しむ患者に向き合うことが出来なかったり、教育学部では、子どもや保護者の思いを受け止めることが困難であったり、また英語力のよいうに長年学んできているのに一向に実力が発揮できなかったりなど、複雑多岐な「実践場面」に有効に対処する資質・能力が育てていない実情が存在している。これに対して今日、大学教育も連携・協働の指導体制を組んで、「実験」「実習」、「討議をする演習」、「個人対応の教育システムの導入」などや、抜本改革としてモデルコア・カリキュラムを開発するなど、教育力の強化に着手している。この分科会では、「実践力」の育成を目指した、さまざまな学部や組織の工夫しておられる実情と直面する課題を明らかにし、大学教育の可能性をさぐっていく。

報告者  
**山脇 正永 氏**  
京都府立医科大学  
総合医療・医学教育学 教授

報告者  
**上原菜穂子 氏**  
京都市教育委員会  
京都市総合教育センター  
教員養成支援室  
指導主事

報告者  
**松宮 孝明 氏**  
立命館大学法科大学院  
法務研究科  
研究科長

報告者  
**青谷 正妥 氏**  
京都大学 国際交流推進機構  
国際交流センター  
准教授

コーディネーター  
**村田 利裕 氏**  
京都教育大学  
教育学部 教授

# ポスターセッション

## 10:00～15:30

## コアタイム

(12:00～13:30)

## 敬学館

FDに関する情報収集、参加者間の交流を目的として、ポスターセッションを行います。大学コンソーシアム京都加盟大学の教員、職員、学生が所属大学の特徴的なFDの取り組みを発表します。

**第8分科会（定員：40名）****入学前教育の現状とその効果の検証**

報告者  
**山本 由紀 氏**  
松本大学  
キャリアセンター

報告者  
**森下 昌彦 氏**  
京都府立城陽高等学校  
進路指導部長

報告者  
**椋本 洋 氏**  
大学コンソーシアム京都  
高大連携推進室 /  
立命館大学  
理工学部 講師

コーディネーター  
**葛城 大介 氏**  
京都薬科大学  
数学分野 准教授

**第13分科会（定員：40名）****学生の縦のつながりを活かした学生支援**

学生の多様化が著しい現在、文部科学省においても学生中心の大学づくりへの転換が指摘されるなど、学生支援の充実は全ての大学における課題である。各大学では、全ての学生の学びを充実したものとするために、入学時から卒業まで様々な形での学生支援が行われている。誰が、誰（どのような学生）に対して、どのような支援をおこなえるか、を考える場合、多様な可能性があるだろう。その中で、学生自らが支援の担い手となることによって、学生の自立性・主体性を育てようとする取り組みも多く見られる。本分科会ではこの点に着目し、学年を越えた縦のつながりを学生支援にどのように活かせるのか、を中心に正課・正課外それぞれにおける具体的な取り組み事例の報告をもとに考える機会としたい。

報告者  
**高橋 伸一 氏**  
佛教大学 社会学部  
公共政策学科 教授  
学生(社会学部支援上回生)

報告者  
**池田佳奈子 氏**  
お茶の水女子大学  
情報基盤センター  
アカデミック・アシスタント

報告者  
**森川 園子 氏**  
国際基督教大学 教務部  
アカデミック・プランニングセンター  
学生ピア・アドバイザー

報告者  
**小貫有紀子 氏**  
九州大学  
教育改革企画支援室  
特任助教

コーディネーター  
**林 悠子 氏**  
佛教大学  
社会福祉学部 講師